

# 公共空間における環境彫刻Ⅱ

## —くきの海—

有田信夫 平嶋守 瓜生隆弘

## Environmental Sculptures Ⅱ in Public Spaces — The Sea of Kuki —

Nobuo Arita Mamoru Hirashima Takahiro Uryu

### Summary

Many sculptures have been installed in public spaces all over the country over these last 20 years. The reason is because a sculpture's setting raises a beautiful sight, and this is because it gives people visiting a public space a message and a sense of ease.

However, when a sculpture was installed in a public space, there were many cases left to the judgment of a person concerned with a sculptor and administration or the establishment till now. In the case of the person about sculptor and administration, much thought about public harmony with the space is given to the setting. If anything, the person about sculptor and administration, the setting is apt to depend on the sense of the world. On this account because I am adverse to an aim of the sculpture establishment, and an installed sculpture is inappropriate, I lost an image of public space, and there is the case that it can stream down an original message, and does not give a sense of ease. In addition, when an inappropriate work was installed in a certain public space, It lost a beautiful sight visually and, it gives a person contacting with the sculpture an unpleasant psychological feeling.

When work with an inappropriate image was installed in a certain public space the sculpture loses a beautiful sight visually and, besides, gives a person close against a sculpture an unpleasant feeling psychologically. The ideal method of the scene includes public space and harmony with the sculpture in question.

Therefore at first, I took up the sculpture (The Sea of Kuki) at the Wakamatsu civic center which was an environmental sculpture that began as an object of the studies to put an appropriate sculpture in the public space.

We investigated a production concept and a production process, the relations of the building which became the sculpture of the public space in the background, environmental sculpture and the relations of the citizens' taste image.

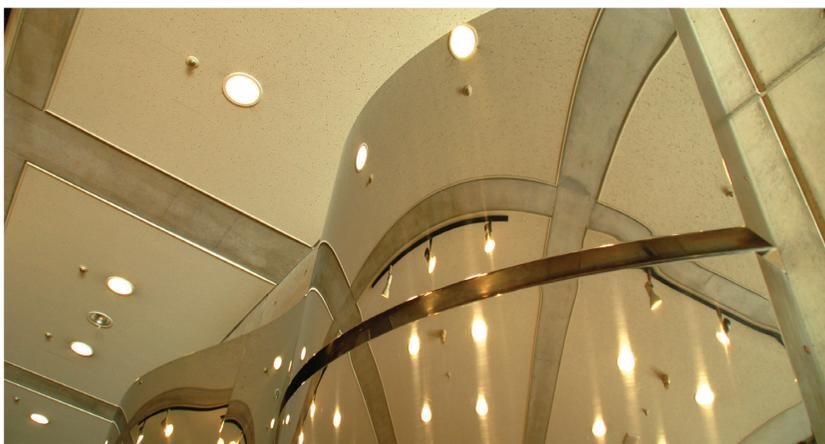
**keyword** : environmental sculpture, public space, image

# 公共空間における環境彫刻

## Environmental Sculptures in Public Spaces

有田信夫 / ARITA NOBUO

近畿大学九州短期大学 / kyshu Junior College of Kinki University



作品タイトル「くきの海」

作品概要（素材：ステンレス、制作手法：溶接、サイズH3000×W700×P50、制作年：1984年）

## I . 研究の目的

本研究では次の項目について調査・分析することを目的とする。

- (1) 研究・制作の背景
- (2) 彫刻制作コンセプト
- (3) 彫刻制作プロセス
- (4) 制作後のイメージ調査
  - 公共空間の彫刻と背景になる建物の関係
  - 環境彫刻と市民・学生の嗜好イメージとの関係

### (1) 研究・制作の背景

1985年に北九州市は若松に市民会館を建設した。市民会館の設計コンセプトは、「市民憲章」に言う、「学ぶ楽しさを深め、文化のかおる町にする」とともに、人を大切にし、ふれあいの輪をひろげる空間にするため、若松の歴史・文化および新しい時代に向かっの飛躍させるシティーモダンに設計にされた。館建設に伴いアートも寄贈された。寄贈主は、北九州を代表する社会奉仕家である芳野智章氏であった。芳野智章氏は丁度、東京から帰ってきた若き彫刻家に白羽の矢を当てた。それが作者であり、設計・制作は無条件で委ねられた。また、彫刻を設置する場所は若松の郷土を代表し、芥川賞作家である火野葦平氏の資料室に入るエントランス空間の壁面であった。

### (2) 制作のコンセプト

彫刻は、若松のシンボルとなる市民会館の火野葦平資料室に入るエントランス空間の壁面に設置される彫刻であるから、若松の顔となる。一方、彫刻に求められるものは、市民に親しまれ、文化の香る彫刻でもある。まず、設計にあたっては、下記のこと主張を置き、計画をすすめた。

- ①若松に面する環境の特徴的要素である洞海湾につながる海のイメージをいれること。
- ②時間が経ってもイメージが変わらない素材にする。
- ③壁面設置を考慮して、レリーフにする。
- ④彫刻の構造にユニット組構造を取り入れる。
- ⑤時間という観念が感じられる彫刻であること。
- ⑥彫刻と背景の建物のイメージの構造関係を明確にする

### (3) 制作のプロセス

- ①コンセプトを基にアイデアスケッチ（100枚程度）を繰り返し、デッサンを描いた。
- ②イメージの決定

- ③それを基に実物の 20 分の 1 でマケットの制作。
- ④模型の寸法から本制作用の図面作成。
- ⑤素材と構造の決定。鉄工所への発注。
- ⑥本制作期間：三ヶ月間。

#### (4) 制作後のイメージ調査

##### 1. 調査の目的

制作を行った若松市民会館の環境彫刻（くきの海）については、公共空間により適切な彫刻を設置にするようにするため（1）環境彫刻（くきの海）と市民会館のイメージの関係について（2）環境彫刻（くきの海）と市民や学生の嗜好イメージの関係について基礎的データ作りの調査研究を行った。

##### 2. 調査の方法

NCD 法による分析・結果・考察の調査研究を行った。  
NCD 法とは対象に対して被験者が抱く総合的印象を形容詞言語に置き換え、さらに形容詞言語が色彩と等価交換できることを特徴としている。また、NCD 法は造形嗜好感性調査の多変量解析で、ものづくりに関する色彩、形態、材質、などの嗜好感性を尺度化、しかもそれらの相関性や構成法を事前検証している。

##### 3. 調査

###### ①調査の期日

平成 19 年 9 月 平成 19 年 10 月

###### ②調査の対象

若松市民会館の環境彫刻「くきの海」

若松市市民会館

市民及び学生の嗜好イメージ

###### ③アンケートの対象者

市民 40 人

九州産業大芸術学部デザイン科学生 40 人

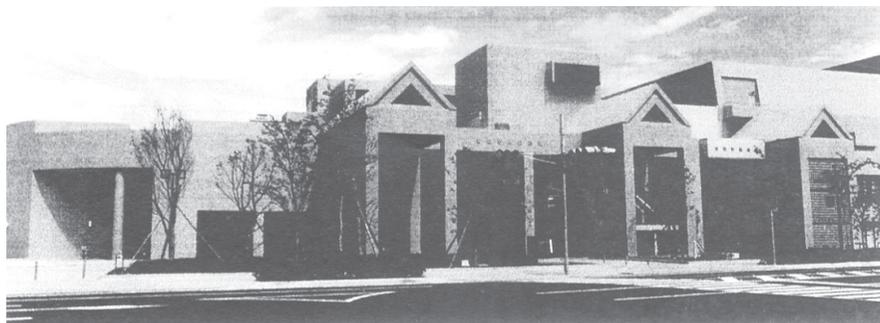
###### ④アンケートの方法

NCD 法により、環境彫刻「くきの海」、若松市市民会館

に対して、被験者がいづく総合的印象と被験者の嗜好イメージを形容詞 180 語の中から 15 ～ 20 語を選択する方法を用いた。

⑤ アンケート調査用紙

下記の180語の中から、建物のイメージを15~20語選んで、その数字に○をつけてください。



- 1 アクティブな
- 2 うれしい
- 3 開放的な
- 4 かわいい
- 5 きりりとした
- 6 高尚な
- 7 親しみやすい
- 8 情緒的な
- 9 すがすがしい
- 10 繊細な
- 11 丹念な
- 12 なじみやすい
- 13 はなやかな
- 14 本格的な
- 15 愉快な
- 16 あでやかな
- 17 円熟した
- 18 飾り気のない
- 19 甘美な
- 20 クリアな
- 21 こってりした
- 22 しとやかな
- 23 情熱的な
- 24 スピーディーな
- 25 装飾的な
- 26 知的な
- 27 にぎやかな
- 28 微妙な
- 29 みずみずしい
- 30 ユーモラスな
- 31 あざやかな
- 32 エネルギーが強い
- 33 革新的な
- 34 簡素な
- 35 くつろいだ
- 36 行動的な
- 37 シックな
- 38 上品な
- 39 すっきりした
- 40 洗練された
- 41 淡泊な
- 42 なごやかな
- 43 ひかえめな
- 44 マイルドな
- 45 豊かな
- 46 あどけない
- 47 おおらかな
- 48 カジュアルな
- 49 気軽な
- 50 軽快な
- 51 子供らしい
- 52 しなやかな
- 53 叙情的な
- 54 スポーティーな
- 55 素朴な
- 56 緻密な
- 57 柔和な
- 58 風格のある
- 59 魅惑的な
- 60 陽気な

- 61 味わい深い
- 62 エレガントな
- 63 格調のある
- 64 閑静な
- 65 クラシックな
- 66 合理的な
- 67 質素な
- 68 丈夫な
- 69 素直な
- 70 荘厳な
- 71 力強い
- 72 なつかしい
- 73 ひなびた
- 74 真面目な
- 75 優美な
- 76 淡い
- 77 奥ゆかしい
- 78 活気のある
- 79 気品のある
- 80 気高い
- 81 古風な
- 82 渋い
- 83 女性的な
- 84 スマートな
- 85 大胆な
- 86 懐かしい
- 87 のどかな
- 88 風流な
- 89 メカニックな
- 90 力動的な
- 91 安全な
- 92 男っぽい
- 93 がっしりした
- 94 機敏な
- 95 元気な
- 96 さっぱりした
- 97 地味な
- 98 人工的な
- 99 清潔な
- 100 ダイナミックな
- 101 艶っぽい
- 102 のびのびした
- 103 フェミニンな
- 104 メルヘンの
- 105 理知的な
- 106 居心地の良い
- 107 温和な
- 108 華麗な
- 109 清らかな
- 110 厳肅な
- 111 刺激的な
- 112 重厚な
- 113 新鮮な
- 114 ぜいたくな
- 115 タフな
- 116 都会的な
- 117 肌ざわりのよい
- 118 平和な
- 119 やさしい
- 120 ロマンチックな

- 121 アンティークな
- 122 おとなしい
- 123 活動的な
- 124 きめ細かい
- 125 健康な
- 126 さりげない
- 127 シャープな
- 128 紳士的な
- 129 青春の
- 130 たくましい
- 131 田園的な
- 132 のんびりした
- 133 フォーマルな
- 134 モダンな
- 135 リリしい
- 136 ういいういしい
- 137 快活な
- 138 枯れた
- 139 強烈な
- 140 高雅な
- 141 静かな
- 142 充実した
- 143 進歩的な
- 144 精密な
- 145 男性的な
- 146 どっしりした
- 147 はつらつとした
- 148 豊潤な
- 149 やずらかな
- 150 ワイルドな
- 151 生き生きした
- 152 温雅な
- 153 家庭的な
- 154 キュートな
- 155 堅実な
- 156 さわやかな
- 157 しゃれた
- 158 神聖な
- 159 清楚な
- 160 楽しい
- 161 伝統的な
- 162 激しい
- 163 文化的な
- 164 躍動的な
- 165 冷静な
- 166 麗しい
- 167 快適な
- 168 可憐な
- 169 気楽な
- 170 豪華な
- 171 自然な
- 172 純真な
- 173 スカッとした
- 174 セクシーな
- 175 ダンディーな
- 176 ドレッシングな
- 177 派手な
- 178 ほがらかな
- 179 優雅な
- 180 若々しい

選択したNoを記入してください。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

氏名:

性別: 男・女

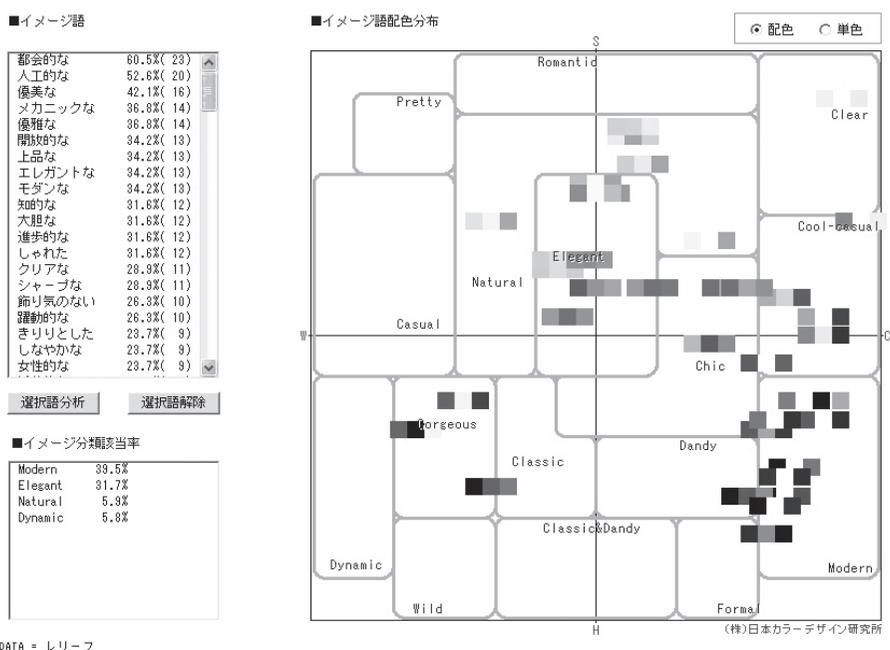
年齢:

## □公共空間の彫刻と背景になる建物の関係

### ①くきの海に対するイメージ分析

W - C / S - Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、モダン (39.5%)、エレガント (31.7%)、ナチュラル (5.9%)、ダイナミック (5.8%) に集まっていることが分かる。また、頻度の高い形容詞を見ると、都会的な (60.5%)、人工的な (52.6%)、優美な (42.1%)、メカニク的な (36.8%)、優雅な (36.8%) となっている。このことから、この彫刻のイメージは「エレガント・モダン」である。また彫刻 (くきの海) のテーマ・イメージである「文化の香る海につながるイメージ」に一致している。

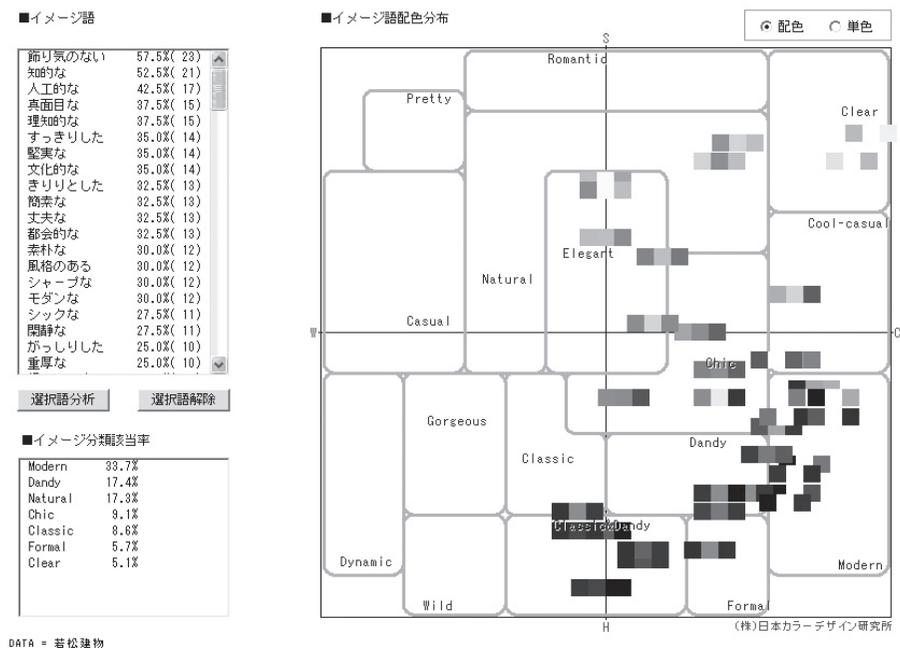
### ■彫刻くきの海のイメージ



### ②若松市民会館に対するイメージ分析

W - C / S - Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、モダン (33.7%) に集中して、ダンディ (17.4%)、ナチュラル (17.3%)、シック (9.1%)、クラシック (8.6%)、フォーマル (5.7%)、クリアー (5.1%) の順となっている。頻度の高い形容詞をみると、飾り気のない (モダン) [57.6%]、知的な (モダン) [52.5%]、人工的な (モダン) [42.5%]、真面目な (ダンディ) [37.5%]、理知的な (モダン) [37.5%] 形容詞が、上位をしめている。このことにより、建物のイメージは「モダン」で、「ナチュラル・ダンディ」となる。建物の設計のコンセプトは「都市の中のカルチャーコアで、情報の発信基地」ということなので、イメージのズレはない。

## ■若松市民会館のイメージ



## □若松市民会館と彫刻（くきの海）とのイメージ関係

制作した彫刻のイメージはエレガント・モダンである。それに対して背景の市民会館はダンディ・モダンである。よって、イメージの構造は1部分共通ゾーンがある関係になる。昨年までに、調査した彫刻と背景の建物の関係について調べた結果、下記のことがデータとして明らかになっている。

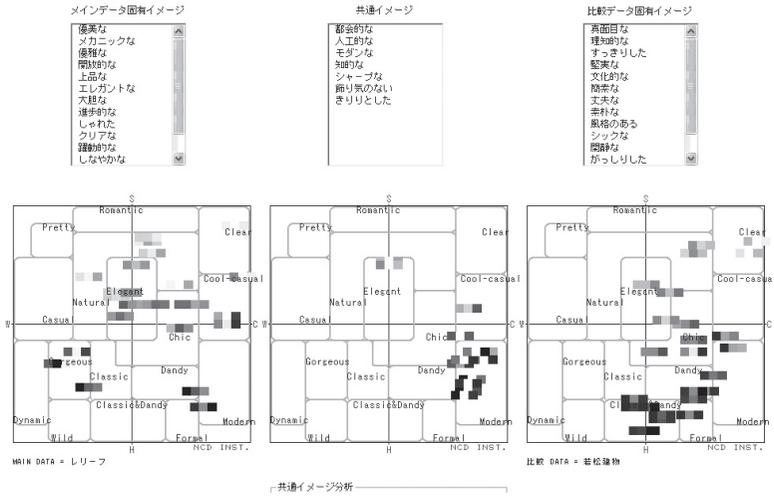
＜彫刻と背景のイメージの関係は次の3つのパターンに分けられる＞

- ①イメージの関係は、対立関係にある。
- ②イメージの関係は、1部分共通ゾーンがある
- ③イメージの関係は、共通である

この3つのパターンの中で、①の場合、景観上、よくきわだった。②の場合、景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。③の場合、景観上、同化する。となるが、彫刻の場合、作家のメッセージがあるから背景の建物とは同化するよりきわだつ部分もあることが好ましい。

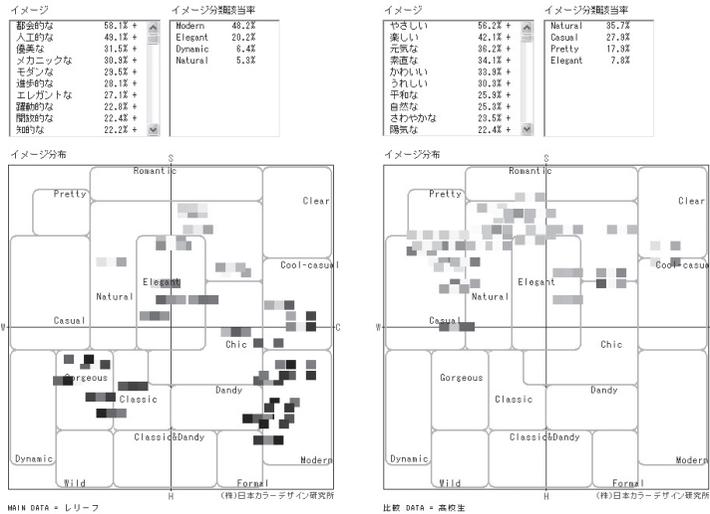
よって彫刻（くきの海）と市民会館との関係は②のイメージの関係は、1部分共通ゾーンがある。ということで景観上、きわだつ部分もあるが、同化する部分もある。ということになる。

## ■彫刻（くきの海）と若松市民会館の共通イメージ分析



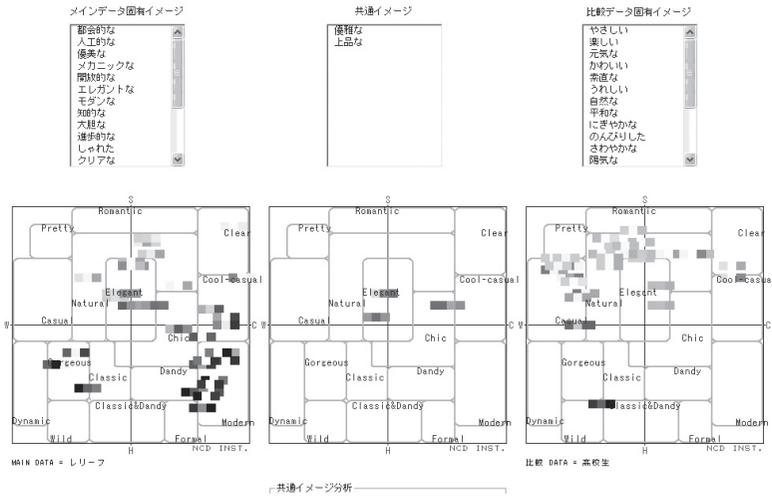
## □環境彫刻（くきの海）と市民、高校生、大学生との嗜好イメージの関係

### ①環境彫刻（くきの海）と高校生の嗜好イメージとの比較分析

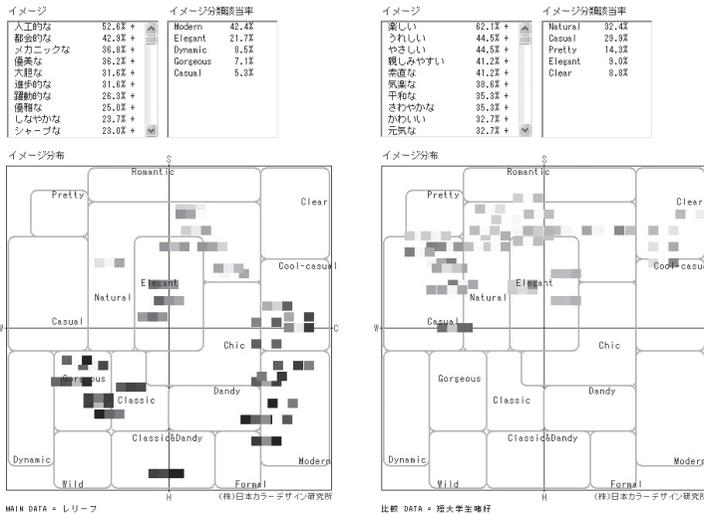


高校生の嗜好イメージと彫刻（くきの海）イメージの比率差分析でW - C / S - Hのイメージスケールのゾーニングを見ると、高校生のイメージ分析では嗜好イメージの形容詞はやさしい（58.8%）、楽しい（44.7%）、元気な（38.8%）、かわいい（36.5%）、素直な（34.1%）、うれしい（32.9%）、自然な（30.6%）の形容詞が、上位を示している。また、彫刻のイメージでは都会的（58.1%）、人工的（49.1%）、優美な（31.5%）、メカニク的な（30.9%）、モダンな（29.5%）、進歩的な（28.1%）の形容詞が、上位を示している。メインの固有なデータでは、開放的な、エレガントなイメージが上位をしめしているのが、特徴で、共通イメージ

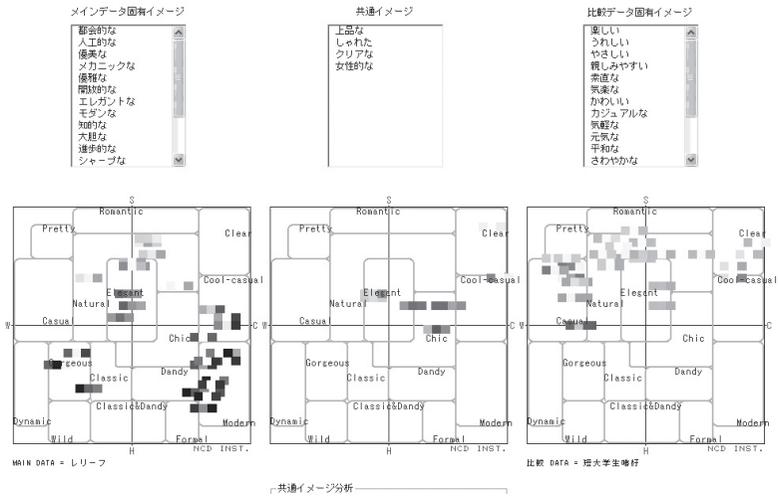
は優雅な、上品な形容詞になる。



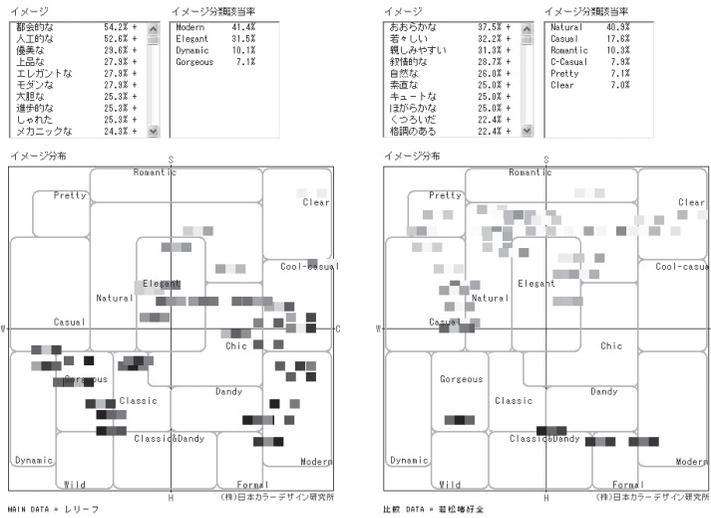
②彫刻（くきの海）と短大生嗜好イメージの比較



短大生のメインデータの固有メージ分析では W - C / S - H のイメージスケールを見ると、嗜好イメージの形容詞は楽しい (62.1%)、うれしい (44.5%)、やさしい (44.5%)、親しみやすい (41.2%)、率直な (41.2%) が上位をしめている。また、彫刻のイメージでは人工的 (52.6%)、都会的な (42.9%)、メカニックな (36.8%)、優雅な (36.2%)、大胆な (31.6%)、進歩的な (31.6%)、躍動的な (26.8%)、優雅な (25.0%) の形容詞が、上位を示している。共通イメージは上品な、しゃれた、クリアな、女性的な形容詞になる。

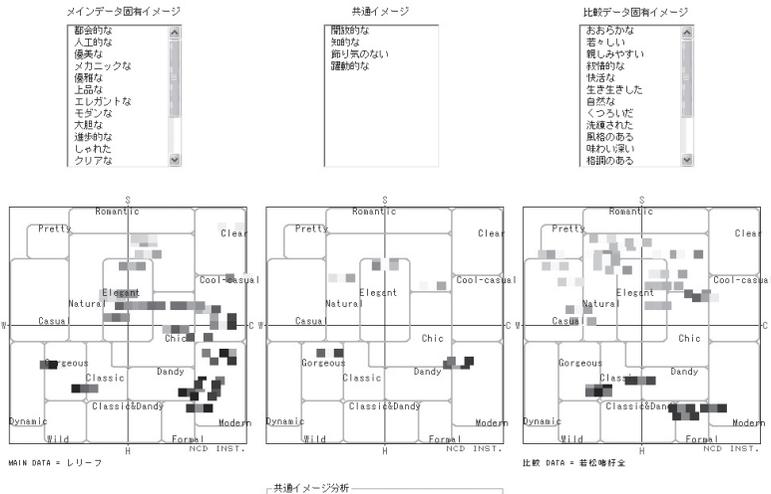


③環境彫刻（くきの海）と市民の嗜好イメージとの比較



市民（高齢者）の嗜好イメージと彫刻（くきの海）イメージの比率差分析で W - C / S - H のイメージスケールを見ると、市民のイメージ分析では嗜好イメージの形容詞はおおらかな (37.5%)、若々しい (32.2%)、親しみやすい (31.3%)、情緒的な (28.7%)、自然な (26.0%)、率直な (25.0%)、キュートな (25.0%)、ほがらかな (25.0%) の順に上位を示している。

彫刻（くきの海）イメージは都会的な (42.9%)、人工的 (52.6%)、優美な (36.2%)、上品な (27.9%)、エレガントな (27.9%)、モダンな (27.9%)、大胆な (25.8%)、進歩的な (25.8%) の形容詞が、上位を示している。共通イメージは開放的な、知的な、飾り気のない、躍動的なである。



□環境彫刻と市民の嗜好イメージとの関係分析

嗜好イメージと環境彫刻のイメージと比較し、共通イメージを注出した結果。彫刻（くきの海）を好む世代は調査した世代にはないことが判明した。高校生の好みのイメージは、やさしい（58.8%）、楽しい（44.7%）、元気な（38.8%）、かわいい（36.5%）、素直な（34.1%）、うれしい（32.9%）、自然な（30.6%）形容詞である。それに対して環境彫刻（くきの海）のイメージは都会的な（58.1%）、人工的な（49.1%）、優美な（31.5%）、メカニク的な（30.9%）、モダンな（29.5%）、進歩的な（28.1%）イメージである。短大生の好みのイメージも楽しい、うれしい、優しい、親しみやすいイメージである。また市民（高齢者）も飾り気のない、おおらかな、若々しい、開放的な嗜好イメージを好んでいる。以上の点から環境彫刻（とぎの海）は市民に親しまれる彫刻というよりよそいきの環境彫刻になってしまった。唯一、若松市民（高齢者）との共通イメージに開放的な、知的な、飾り気のない、躍動的な形容詞が見出された。また高校生では優雅な、上品な、短大生では上品な、しゃれた、クリアな、女性的な共通部分を見出すことができた。

Ⅱ. 研究のまとめ

公共空間の彫刻を依頼され、制作したが、制作の前にこのような調査データが存在すると、アート計画に参考になるし、景観上きわめて適切なる対応ができる。若松市の彫刻は、現代の利用されている市民好みのイメージの彫刻ではなくなっている。ここではとりあげなかったが、市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるかという問題も調査する必要がある。また制作した時代が求めた「文化の香りがある市民会館である」ことのコネクトは過去の考え方として扱ってよいかという問題もある。今後、時間が経過することで市民の嗜好イメージも変わってくる。よって市民に親しまれる彫刻はどういう彫刻であるかということもこの研究を通じて、再調査する必要が課題として出てきた。

公共空間における彫刻作品のあり方は、今後も、問われ続けられると思われる。また、同時に調査方法の問題も問われている。感性の世界が科学的データに基づいて客観的になることが公共空間の質につながると考えられる。

## 引用・参考文献

- 1) M. A ロビネット著、千葉成夫訳「野外彫刻」(SD、鹿島出版会)
- 2) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品に対する規制と撤去・破壊の史的変遷」(デザイン学研究 88号、1992)
- 3) 竹田直樹著「公的空間の彫刻作品の作品内容の在り方」(デザイン学研究 97号、1993)
- 4) 小林垂順著「カラー・イメージ辞典」(日本カラーデザイン研究所)
- 5) 小林垂順著「カラーマーケティング戦略」(日本カラーデザイン研究所)
- 6) 小林重順著「造形構成の心理」(ダヴィッド社)
- 7) 公共空間における彫刻作品に対するイメージ調査 有田信夫  
ON THE INVESTIGATION OF IMAGES TOWARDS SCULPTURES IN PUBLIC SPACE  
近畿大学九州短期大学研究紀要 第23号 平成5年12月
- 8) 公共空間における環境彫刻に対するイメージ調査－環境彫刻のイメージと世代別嗜好イメージとの差－  
有田信夫(日本基礎造形学会論文集・011号、2002)
- 9) 公共空間の環境彫刻に対するイメージ調査  
環境彫刻のイメージと風土イメージの差  
A COMPARISON STUDY ON DIFFERENCES OF IMAGES TOWARDS ENVIRONMENTAL SCULPTURES IN PUBLIC SPACES  
A Comparison of the Differences between Images towards Environmental Sculptures and Images of Regional Climate 有田信夫(日本基礎造形学会論文集・012号、2003)

## 要旨

この20年、全国の公共空間に、数多くの彫刻作品が設置されるようになった。美観を高めたり、公共空間を訪れる人々にメッセージや安らぎを与えるためである。

しかし、これまで、公共空間に彫刻を設置する場合は、彫刻家や行政、設置に関わる人の見識にまかされるケースが多く、この場合、彫刻家や行政、設置に関わる人は公共空間との調和を全く考えない訳ではなかったが、どちらかと言えば、感覚的世界に頼りがちである。このため、彫刻設置のねらいとは逆に、設置された彫刻が不適切なため、公共空間のイメージを損ない、本来のメッセージを伝えたり安らぎを与えていない場合がある。また、ある公共空間に、不適切なイメージの作品が設置された場合、美観を視覚的にそこない、そのうえ、彫刻作品に接する人に心理的に不快な感じを与える。公共空間と彫刻との調和を含めた景観の在り方が問われているのであり、そのためには、科学的なデータに基づく検討が必要と言える。そこで、

本研究では、昨年取り上げた飯塚コスモスコモンの彫刻調査につき、公共空間に適切な彫刻を置く為に、まず、自らの最初の環境作品である若松市民会館の彫刻（くきの海）を取り上げ、制作コンセプトと制作プロセス、公共空間の彫刻と背景になる建物の関係、環境彫刻と市民の嗜好イメージの関係を調査し、公共空間における彫刻の制作コンセプトやイメージの関係を分析した。

キーワード 環境彫刻、公共空間、イメージ